

波佐ネット通信

No. 239 2023.7.13

黒韋威胴丸の詳細調査

「波佐ネット通信」224号で、概報をお知らせしておりましたが、7月12日(水)に、甲冑研究家の豊田勝彦氏が2度目の金城資料館へ来館され詳細調査が行われました。残欠の小札など鎧の各部所に配列され、全体の姿が判明しました。この日は、豊田氏に同伴して、九博関係の漆芸修復の大西智洋氏も鎧の見学に来館。浜田市教委からも3名の見学、鎧の来歴調査では、佐田雅宏氏が亀谷家の系図を持参され、調査は1日かかりで行われました。残欠の量は、全体の45%で、右脇開きの胴丸で、巖島神社の国宝と安芸太田町大歳神社の県指定に続く3例目の黒韋威胴丸である。翌13日には、豊田氏と安芸太田町の大歳神社(梶原武彦神主)の案内で県指定の鎧と刀剣を見学。豊田氏から詳細の解説を受けた。



漆仕様の部分を観察



資料館前にて



浜田市教委へ重要度を解説する豊田氏



配置を終えた黒韋威胴丸・右脇から背中部分



右脇の合わせ部分



系図で来歴を調査



安芸太田町の大歳神社にて



黒韋威胴丸の正面



左横側



背面



右横側